教育コラム

寺子屋、福先生のつぶやき 9

『思いやりの心』を育てる具体策

家庭教育支援ラボ 寺子屋「福」主宰 龍福 史朗

前回は、『他を思いやる心』を身に着けることは、情緒、寛容、公共、公正など、豊かな社会生活を営む上で極めて重要であることについてお話ししました。では、『他を思いやる心』はどうすれば身に付くのでしょうか。

『俺が俺がの我(が)を捨てて、お陰お陰の下(げ)に生きる』

私は、性善説(生まれたときはみんな良い子)の信念に基づいて児童生徒の指導に当たってきました。今思うに、この信念は間違っていなかったと自負しています。言い換えれば、人間は生まれながらにして良い子の素質を身に着けているのですが、環境によって善者にも悪者にも変化するのです。従って、**思いやり溢れる子を育てるには、思いやり溢れる環境にどっぷりと浸からせることが、何よりも大切です。**

また、指導者や親が「思いやりの心こそ、人生を豊かにする最大の武器」であると強く認識し、自己中心的な考え方と対峙する覚悟を持つことです。それができれば、子育ての半分は成功したと言っても過言ではありません。

30歳の頃でしょうか『俺が俺がの我を捨てて、お陰お陰の下に生きる』という名言に出会いました。出典は良寛和尚の説教と記憶していますが、諸説まちまちで意味も様々です。私は勝手に「自己中心的な我を捨てて、他者への感謝の気持ちを持ち続けなさい」と理解しています。感謝の気持ちを持ち続けることは私にとっては至難の業であるからこそ、この名言に助けられ現在があります。まさに人生を左右する座右の銘でもあります。

私たちの日常は思いやりに溢れている!

周りを注意深く観察すると、私たちの日常は思いやりにあふれている!と言っても過言ではありません。感動秘話などは、ほとんどは思いやりがテーマであり、猫や犬や小鳥を観ても思いやりに関わる感動場面はいくらでもあります。教師として、子どもと生活していると、例えば、ドッチボールでの弱者への思いやり、清掃道具や忘れ物の貸し借りでの思いやりあふれる光景、また、ドラマを見れば毎日どこかで感動で涙する場面、スポーツ番組ではトップアスリートの勝利インタビューでの感謝の言葉など、とにかく身の周りは思いやりの心でいっぱいです。

私は、現職時代、子どもたちの連絡帳に「今日の心に残る出来事」を毎日、3行日記に書かせました。そこには、涙を誘う感動秘話がどっさりで、宝の宝庫でした。子どもの日常は、感動に溢れていると言っても過言ではありません。

まずは我々大人も、毎日の生活の中から、見たもの、聞いたもの、体験したもの何でもいいから思いやりあふれる場面を拾い集めましょう。**私たちの頭の中を思いやりや感謝の気持ちで、いっぱいにすることです。**中には必ず、これだけは我が子や教え子、周りの親愛なる人たちに聞かせたいと思う、とっておきの秘話が見つかります。

こうした思いやりあふれる環境の中で、「今ある幸せは、周りの人々のおかげであること」を強く認識できるのです。また、失敗や不幸に直面した時は、自分の責任を自覚、反省し、難局を乗り切る勇気に変えましょう。このことを実践できれば、今までとは違った穏やかで平和な世界が見えてくるでしょう。

家庭教育支援ラボ
寺子屋「福」
宇都宮市 滝の原 1-1-1
株式会社ダイワ内
Tel:028-633-4534
http://kosodateclub753.com